

心がけている授業方法と新しい学習方法

1. 心がけている授業

【授業方法の中で、教師が心がけている割合が少なかったのは「1）教師主導の講義形式の授業」「2）教科書にそった授業」「3）自作プリントを使った授業」の3つであった。これらの授業方法は日常的・基本的授業方法

だからこそ、もっと意識して授業展開する必要があるのではないか。これに対して、新しい学習方法と結びついた方法では、教師が意識して取り組みつつある様子をみてとることができる。】

Q3. あなたが指導しているクラスでの授業の進め方や授業の内容についておたずねします。
B. あなたは、どのような授業方法を心がけていますか。1)～10)のそれぞれについて当てはまる番号に○をつけてください。

図3-10は、授業で「特に心がけている」進め方や内容を棒グラフにしたものである。なお、この質問は前年度の中学校版調査ではおたずねしていない。

この図で明らかになったことの第1は、「特に心がけている」という回答が少なかったのは、「1）教師主導の講義形式の授業」0.8%、「2）教科書にそった授業」14.0%、「3）自作プリントを使った授業」16.4%の3つであった。この結果から、少なくとも次の2通りの考察を行うことができる。1つは、これらはいずれも日常的に用いられている授業方法であり、日常的ゆえに特に意識して心がけることがないのかもしれないという考察である。もう1つは、学級崩壊などという恐ろしい言葉によって授業の困難さが告発されている中では、日常的・基本的授業方法だからこそ、もっと意識して授業展開しなければならないのではないかという批判的な考察である。

この図で明らかになったことの第2は、「特に心がけている」という回答が多かったのは、1位「6）体験することを取り入れた授業」64.3%、2位「5）表現活動を取り入れた授業」57.0%、3位「4）自分で調べることを取り入れた授業」45.0%、4位「7）グルー

プ活動を取り入れた授業」44.4%であり、これらは、体験学習、発表、調べ学習などの新しい学習方法と結びついた方法であり、相互に関連した方法でもある。小学校の教師がこれらの方法に意識して取り組みつつある様子をみてとることができる。

最後に第3は「8）自由に議論をする授業」24.5%、「9）教科の枠を超えた授業」16.1%は、現時点では新しい授業方法ほど意識した取り組みがなされていない。

次に、授業で心がけていることの学年別の変化をみたものが56ページの図3-11(1)～(3)である。図3-11(1)で、「特に心がけている」割合が低い3つの授業方法のうち、「1）教師主導の講義形式の授業」はいずれの学年でも非常に低い値になっている。「2）教科書にそった授業」「3）自作プリントを使った授業」は3年生でボトムを迎え、その後はやや上昇し、6年生では1年生とほぼ同じ水準に戻る。

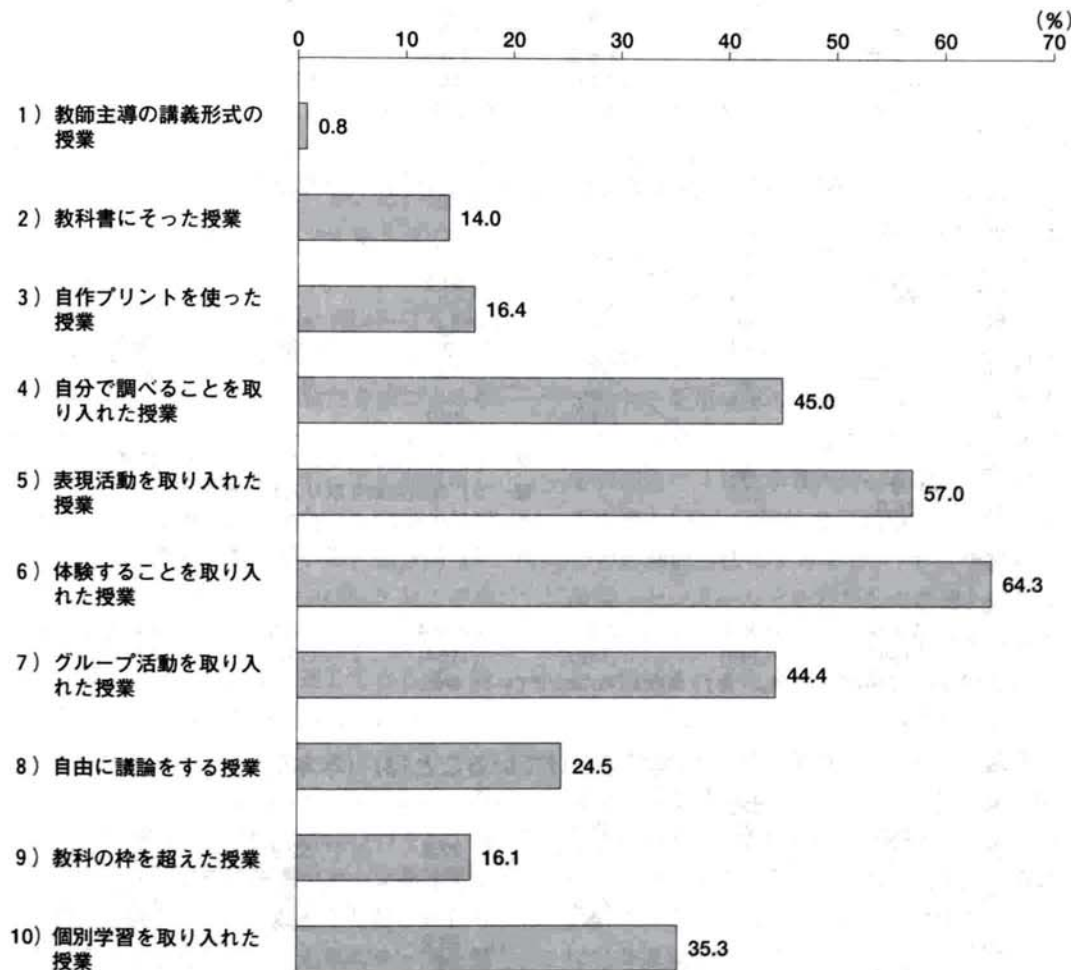
図3-11(2)の新しい授業方法と関連した項目に関しては、「6）体験することを取り入れた授業」「5）表現活動を取り入れた授業」の2つは、1年生の時に「特に心がけている」割合が高く、学年が上がるにつれて低くな

っていく。反対に、「4）自分で調べることを取り入れた授業」「7）グループ活動を取り入れた授業」は1年生の時にもっとも低く、学年とともに上昇し、前者は4年生、後者は5年生でピークをみることになる。

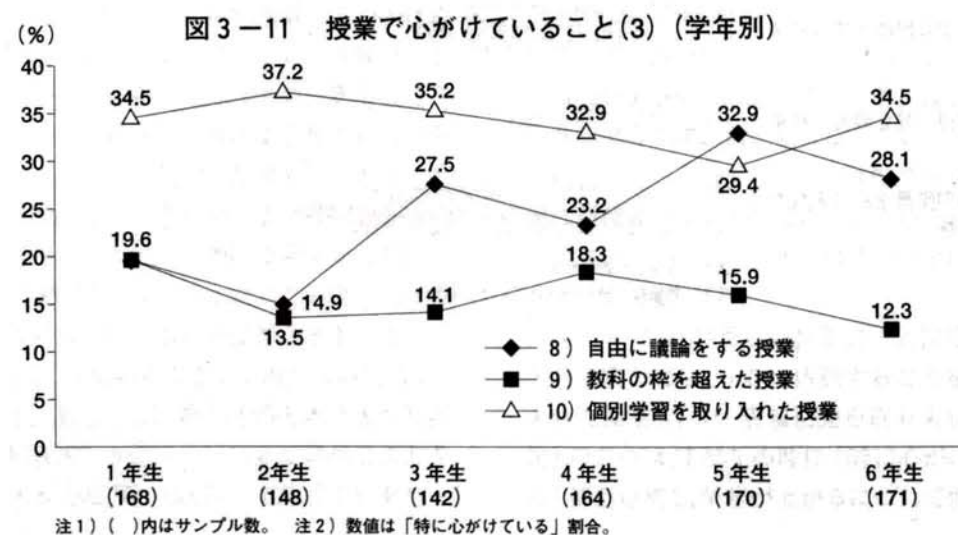
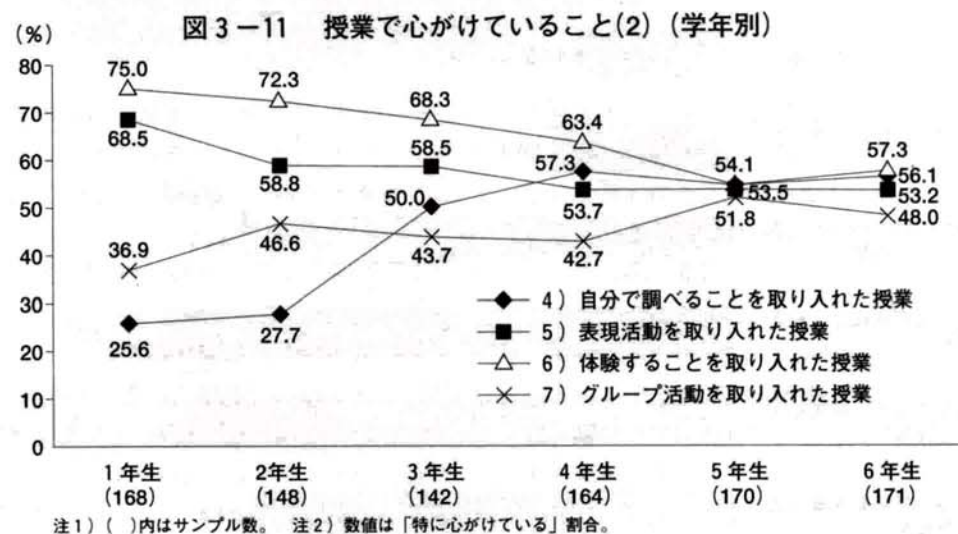
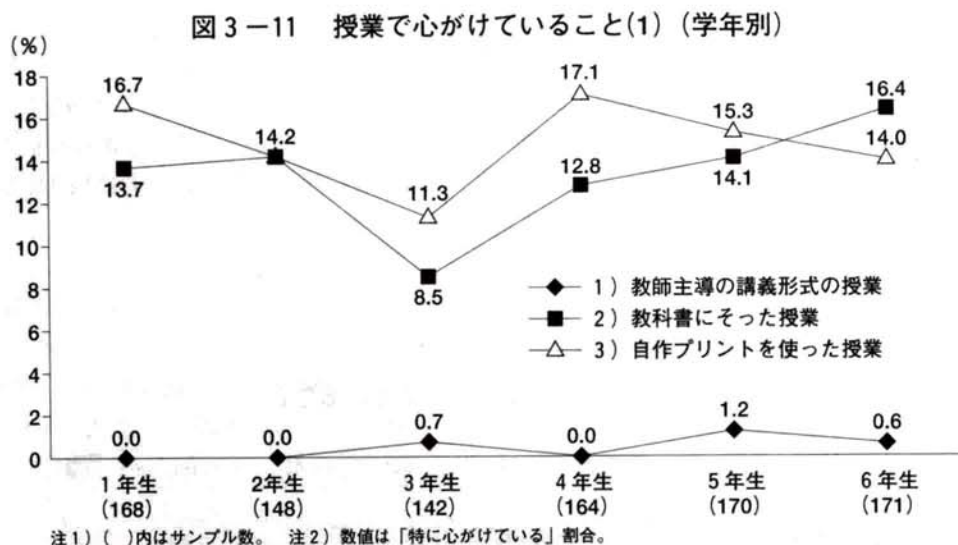
図3-11(3)では、「10）個別学習を取り入れた授業」は5年生でやや下がるものの、他

の学年では30%台でだいたい一定している。「8）自由に議論をする授業」と「9）教科の枠を超えた授業」は1年生では19.6%で同じ値をとっているが、凸凹しながら6年生では、前者は28.1%と増加し、後者は12.3%と減少している。

図3-10 授業で心がけていること



注1) サンプル数は1161人。
注2) 数値は「特に心がけている」割合。



2. 新しい学習指導方法の実施状況

【小学校では、新しい学習指導方法が積極的に取り入れられている。特に、「D. 学校内での体験的方法による学習」86.2%、「E. 学校外での現場・フィールドでの体験的方法による学習」58.7%、「F. 学校外の施設・センターなどを利用した学習」35.5%、「C. 総合的な学習」50.3%など、体験学習的な方法の実施率が高い。さらに、調べ学習、テーマ学習など、児童が自分で調べる学習も実施率が高い。なお、新しい学習指導方法の実施率に関しては、小学校と中学校で大差があり、中学校のほうが実施率が低い。】

Q5. あなたは、次のような方法を用いた授業を行っていますか。A～Mのそれぞれについて、当てはまる番号に○をつけてください。

図 3-12は、新しい授業方法がどのくらいの割合で実施されているかをみたものである。新しい授業方法は、前項でみたように、高い割合で「心がけられている」が、この図にあるように実際にも高い割合で実施されていた。特に体験的な方法については、「D. 学校内での体験的方法による学習」86.2%は8割を超える高い実施率であるし、「E. 学校外での現場・フィールドでの体験的方法による学習」58.7%も、5割を超えて行われている。「F. 学校外の施設・センターなどを利用した学習」35.5%は、まだ少ないもののそれでもすでに3分の1を超えている。総合的な学習も「C. 総合的な学習」50.3%とおおよそ半数の教師が実施している。ただし、総合的な学習については、定義が浸透しておらず、合科学習や総合学習もこの回答の中に含まれている可能性がある。

さらに、調べ学習、テーマ学習といった、児童が自分で調べる学習方法についても、調べ学習が「B. 児童に課題やテーマを与えて行う調べ学習」79.8%とおおよそ8割に達している。テーマ学習も「A. 児童にテーマを選ばせて行う学習」42.9%と4割を超える教師が実施している。

その他では、「J. 個別学習」85.6%、「M. 自作プリントを用いての学習」81.2%などが高い実施率になっている。また、「G. コンピューターを使った学習」34.5%は、小学校ではすでに3分の1以上の教師が実施してい

るが、「H. インターネットを利用した授業」4.6%はまだあまり行われていない。

なお、「K. ティーム・ティーチング」40.1%は4割、「I. ディベート・討論を使った学習」35.1%は3分の1、「L. 社会人講師による授業」21.0%は2割の実施率となっている。

最後に、中学校との比較では、「M. 自作プリントを用いての学習」以外のすべての方法で小学校のほうが実施率が高く、特に体験学習関連の「D. 学校内での体験的方法による学習」「E. 学校外での現場・フィールドでの体験的方法による学習」「F. 学校外の施設・センターなどを利用した学習」の3つの方法では、20ポイント以上も実施率が高くなっている。また「J. 個別学習」でも、20ポイント以上実施率が高くなっている。

次に、図 3-13(1)～(2)で、新しい授業方法の学年別実施率の推移をみてみよう。図 3-13(1)で、まず気がつくのは、小学6年生と中学1年生の間で、急激な変化があることである。小学校と中学校は、授業方法の上では非連続になっている。

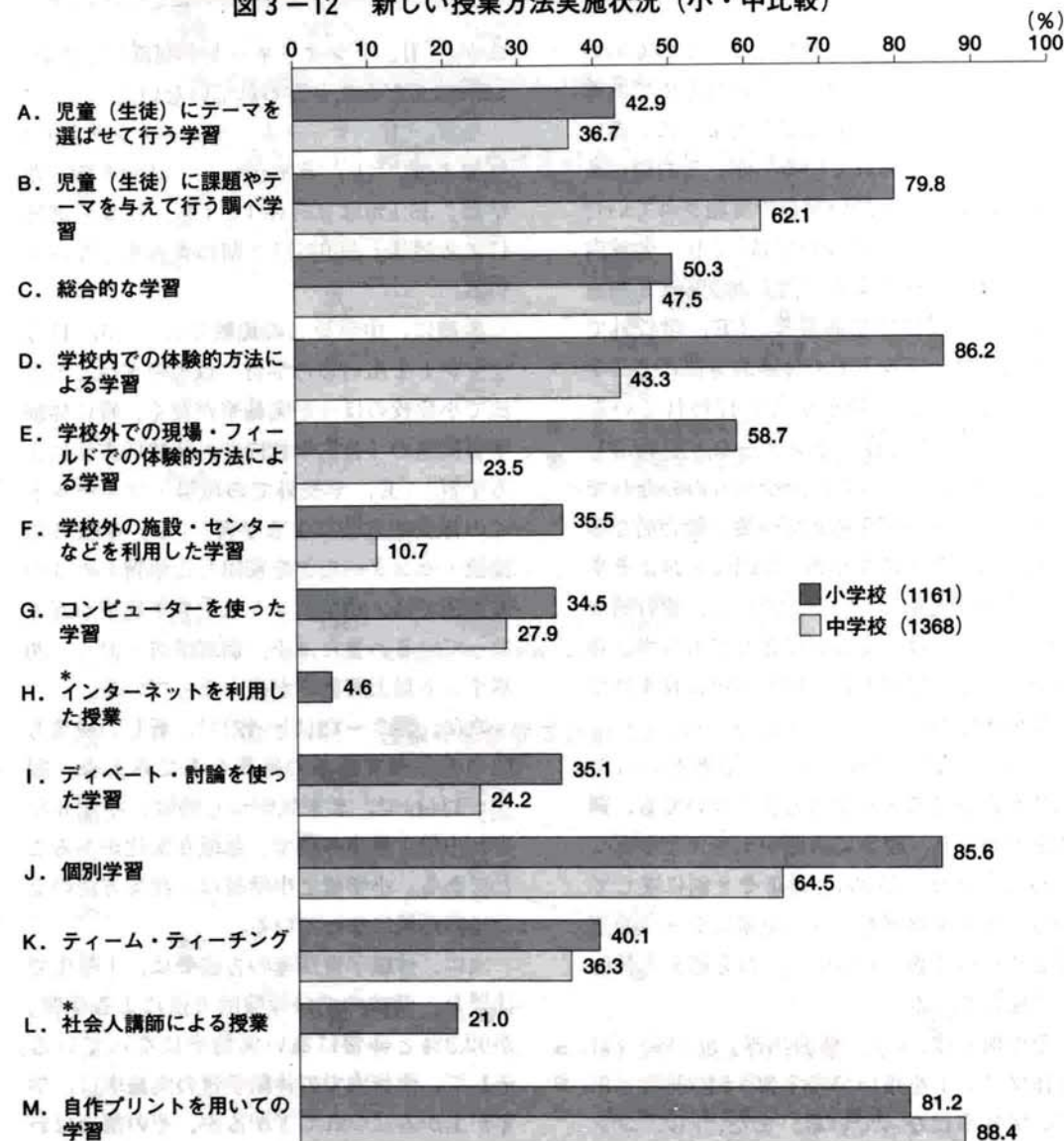
次に、体験学習関連の方法では、1年生では「D. 学校内での体験的方法による学習」が92.3%と非常に高い実施率になっている。そして、学校内での体験学習の実施率は、学年が上がるにつれて下がるが、その割合はわずかで、6年生でも80.1%が実施している。「E. 学校外での現場・フィールドでの体験

的方法による学習」は、1年生で64.3%の実施率であったのが3年生で68.3%とピークを迎え、その後は減少し6年生では43.3%になる。「F. 学校外の施設・センターなどを利用した学習」は、1年生で31.0%の実施率であったのが、これも3年生で49.3%とピークを迎え、その後は学年が上がるにつれて減少する。「C. 総合的な学習」は生活科のある1年生・2年生で6割台と実施率が高く、3年

生以降では4割台に下がる。

調べ学習・テーマ学習については、「B. 児童に課題やテーマを与えて行う調べ学習」は1年生・2年生は60%台の実施率だが、3年生からは9割弱の実施率に増加する。「A. 児童にテーマを選ばせて行う学習」は、1年生・2年生の低学年では2割台の実施率だが、中学年では4割台、高学年では5割台と増加する。

図3-12 新しい授業方法実施状況(小・中比較)



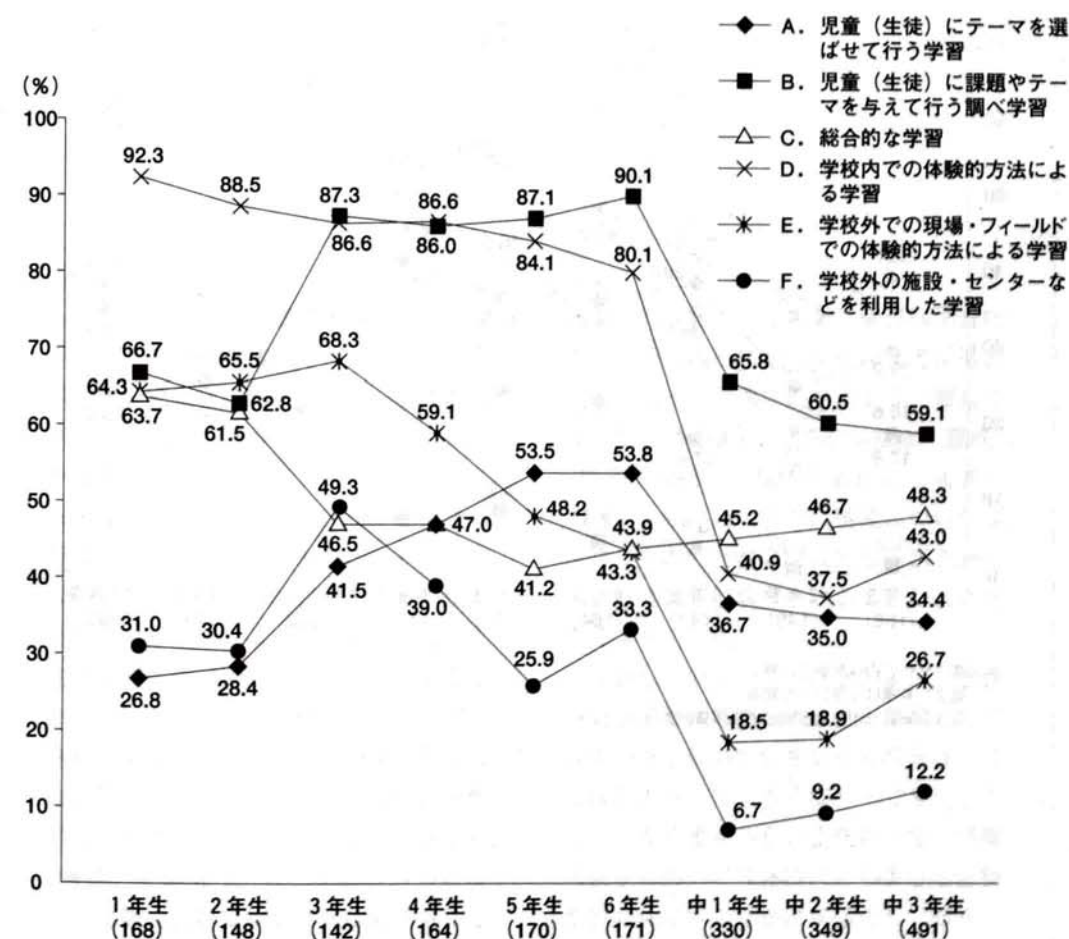
注1) ()内はサンプル数。
注2) 数値は「はい」の割合。
注3) *は、中学校版調査では項目がない。

つづいて図3-13(2)で、「J. 個別学習」は、すべての学年で8割台の高い実施率になっている。「M. 自作プリントを用いての学習」もすべての学年で高い実施率になっているが、学年ごとにやや差があり、1年生で89.3%の実施率であるのが、5年生では71.8%と実施率が下がる。また、「G. コンピューターを使った学習」は、3年生・4年生の中学年以降で増加する。「H. インター

ネットを利用した授業」は全体に実施率が低いものの、学年が上がるにつれて増加する。

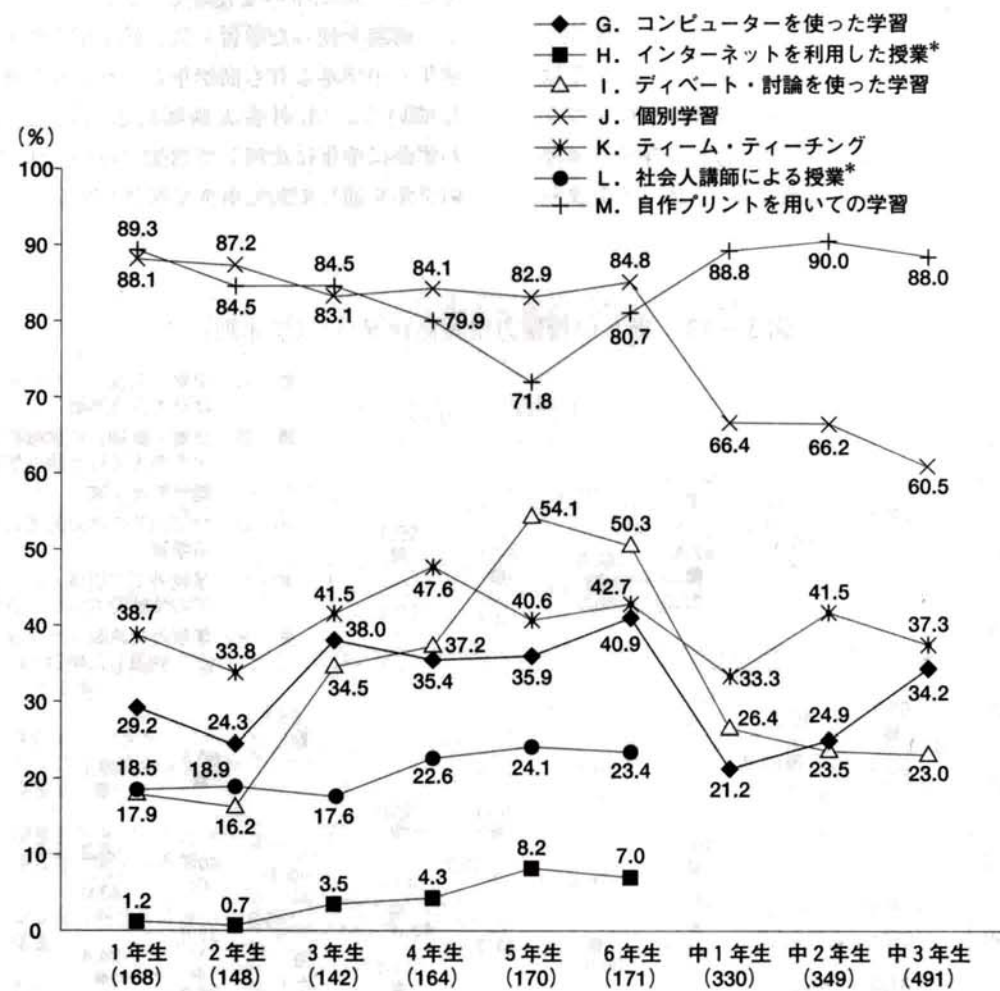
「K. ティーム・ティーチング」は4年生をピークに山型の変化をし、「I. ディベート・討論を使った学習」は、低学年よりも中学年、中学年よりも高学年というように増加していく。「L. 社会人講師による授業」は、わずかに学年に比例して増加するが、すべての学年を通して20%前後で推移している。

図3-13 新しい授業方法実施状況(1)(学年別)



注1) ()内はサンプル数。
注2) 数値は「はい」の割合。

図3-13 新しい授業方法実施状況(2) (学年別)



注1) ()内はサンプル数。
 注2) 数値は「はい」の割合。
 注3) *は、中学校版調査では項目がない。